

## 薬剤部 DI ニュース

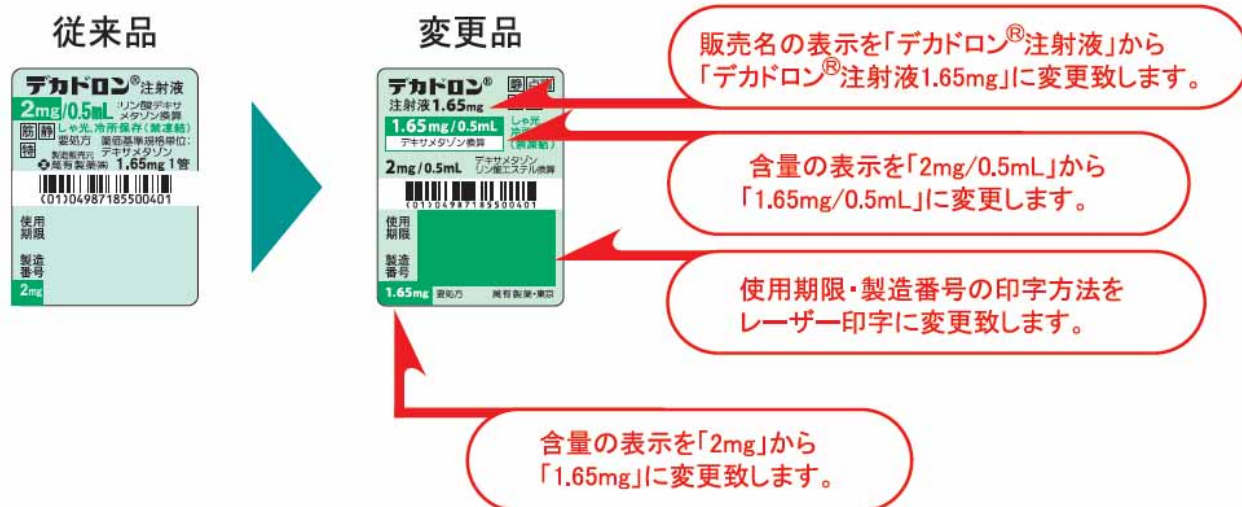
## 医療安全管理について（シリーズ6）

## ～ 医薬品表示の変更について ～

我が国で医療安全に関する国民の高まりを生むきっかけとなった患者取り違え事故から10年がたちました。この間厚労省に設置された医療安全対策検討会議から「医療安全推進総合対策（平成14年）」が出され、行政、製薬企業、医療機関に対して責務と役割が示されました。医療安全推進総合対策では医薬品の安全性を「物の安全」（薬剤そのものに起因）と「使用の安全」（人間に起因）の2つの面から捉える必要性を示し、行政、製薬企業、医療機関等の責務と役割を定め、行対応がとられてきました。例としてサクシン、サクシゾン事故再発を受けて、「サクシン」の名称が「スキサメトニウム」への変更が行われ、「メテナリン」（「ウテメリン」と名前がそっくりで効果が全く逆）も変更が予定されています。薬剤の名称は「医薬発第935号 厚生省医薬安全局長通知」に従い「**ブランド名+剤形+含量（または濃度）**」表記に現在改訂作業が進んでいるため、最近、薬剤名変更がコロコロ変わっています。その流れで、名称変更に伴う濃度表記で、改訂によって臨床上逆に危険になった薬剤もあります。

## &lt; デカドロン注射液の場合 &gt;

変更前「デカドロン注射液 2mg/0.5mL」 変更後「デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL」



論文やガイドラインは全てデキサメタゾンリン酸エステル量（2mg等）で表記されているため、デカドロン換算表記（1.65mg）では非常に困惑しやすく、実際に電子カルテ導入の大病院において「デカドロン40m（リン酸エステル量）」に対して20A処方に対して、新しい表示を見て「 $40 \div 1.65 = 24.2A$ 」と考え、24A処方・投与された事故の報告もあります。当院においても電子カルテ導入を控えており、同様の事故と無縁とは言い切れないため注意は必要です。

## &lt; 形状類似薬剤情報 &gt;



活性化ビタミンB6製剤

一見すると「まさか」でも、全国的には事例多数ありとのこと・・・



抗甲状腺剤